

南木菅原神社神幸祭
伝 伝統の祭事がつなぐ地域の輪

100年以上の歴史を持つ南木菅原神社の神幸祭が5月2日から2日間行われました。4～12歳までの稚児7人が境内や御旅所をめぐり、獅子とともに獅子にあわせた舞を奉納。少子化で祭事の存続が危ぶまれながらも「人のつながりを大切にしたい」と願う地域の努力によって、伝統は絶えず受け継がれています。



↑ 地域をつなぐ伝統として守られ、地区の子どもなら一度は体験する稚児舞。

↓ 一つひとつ器を手にとりお気に入りを探る陶芸ファンの姿が印象的でした。



第45回 上野焼春の陶器まつり
趣 深い器を陶芸ファンが品定め

上野焼の陶器まつりが4月27日からの4日間開催され、町内外から約6,000人が訪れました。幸いお天気にも恵まれ、家族連れが多く、連日にぎやかな上野の里に。一つひとつ手作りの上野焼は焼き方や窯内の位置によっても風合いが異なるため、陶芸ファンは繊細な景色を見極め、お気に入りを探していました。

↓ 500年以上もの時を経て四方へと力強く広がった枝の下で尺八演奏を奉納。



定禅寺の藤まつり
迎 接の藤の長寿を観光客も祈願

藤供養の「藤まつり」が定禅寺(弁城)で4月29日に開催されました。境内には福岡市からの団体ツアーや外国人観光客の姿も。今年は開花時期が早まり見頃を過ぎていたため、惜しむ声もありましたが、虚無僧による尺八演奏の奉納で会場の空気が一変。来場者全員が厳かな祭事を見守り、藤の長寿を願いました。

平筑姉妹協定の台湾平溪線関係者が来町
来 日記念に上野焼作陶を初体験

「ニーハオ!」。隣国台湾から平成筑豊鉄道と姉妹協定を結ぶため平溪線鉄道の4人が来日。5月18日に上野を訪れ、庚申窯で作陶を体験しました。上野焼協同組合では4月にホームページを大幅に改善し、英語版のパンフレットも作成。整えてきた訪日観光客の受け入れが一層充実した作陶体験につながっています。



↑ 粘土を触ったのは子どもの頃以来だとうれしそうに語る陳 義忠駅長(手前)

↓ 金田小での贈呈式で辻村教育長(手前)と大友支店長が期待を込めて代表児童2人に通帳を手渡し。



西日本シティ銀行提携読書通帳贈呈式
通 帳に残す自分だけの読書歴

西日本シティ銀行とふくちのちが共同作成し、昨年4月に町内の全小中学生に贈った読書通帳。今年も5月18日に新入学の町内全児童202人に贈呈されました。通帳はふくちのち設置の機械に差し込むと借りた本の題名や貸出日などを印字、導入1年で6千回以上利用される好評ぶりです。記帳を楽しみに本を借りる利用者も多く、読書推進の一助になっています。

平成30年度 福智町高齢者大学開講式
健 康・生きがい・仲間づくりの半年間

福智町高齢者大学の開講式が5月17日に地域交流センターで行われました。今年は159人の受講生を対象に、週1回、およそ半年間実施。開講式では辻村哲弥教育長が「健康づくり、生きがいづくり、仲間づくりが大切」と呼びかけました。今後21回の豊富な講座を学ぶほか、学校訪問やバス研修も計画されています。



↑ 冒頭で嶋野町長が「ここでのつながりを地域に還元していただきたい」と挨拶。

↓ 建物3階に張られたロープを渡り、20m先の救助者の元へ向かう藤村さん。



筑豊4地区消防本部合同救助訓練
磨 き抜かれた救助技術の競演

筑豊4消防本部の代表34名による訓練が田川地区消防本部で4月26日に行われました。大会でも実施される4種目を行い、4人1組でロープを渡り救助を行う「ロープブリッジ救出」には福智出身の藤村祐人さん(上野)と朝部翔太さん(伊方)が出場。参加チーム中1位の51.09秒を記録し、高い消防技術を披露しました。